一般財団法人全日本ろうあ連盟
理事長　石野富志三郎様

「全ての新生児に難聴検査を」の記事を読んでくださったことに、まずもって御礼申し上げます。

この記事に関して頂いたご質問に、以下の通りお答え申し上げます。

この記事は、聴覚スクリーニング検査を早期に受けることの重要性、検査態勢を全国的に整えることの重要性を伝えることを目指したものです。

記事で「耳からの情報がなかったり、極端に少なかったりすることは、言葉の発達の遅れにつながる」とした部分は、検査がチェック対象としている「耳からの情報」が音声言語の獲得に影響する一つの要素となり得ることを記す趣旨でした。手話言語による言語獲得・発達を否定したものではございません。

言語獲得の選択肢に関し、執筆過程では手話言語に言及することも検討いたしました。ただ、検査の重要性に焦点を当てる今回の記事の狙い、そして紙面における行数の制約などから、一言触れるだけでは不十分な形の言及になるのではないかと懸念し、手話言語については機会を改めて分量を割いてご紹介した方がよいと考えました。手話言語による言語獲得・発達につきましては、その重要性を深く認識しております。「一つの方程式」のみを示すことに問題があるとのご指摘は真摯に受けとめます。

聞こえる人も、聞こえない・聞こえにくい人も、共に暮らし喜び合える「共生社会」の実現に努力していくことは極めて大切であり、このたびいただいたご指摘とご見解は、今後の記事づくりにいかして参ります。読者に多様な判断材料を提供するべく努力して参りますので、今後とも、取材などを通じてご協力いただけたら、ありがたく存じます。

２０１９年８月３０日
朝日新聞社文化くらし報道部長
山口　進